

銅 概 況

大阪市中央区玉造2丁目28番10号
加藤金属興業株式会社

◎ 2020年1月の国内電気銅建値は下記の通りです。

1月	6日	～	700円/Kg
1月	9日	～	710円/Kg
1月	14日	～	730円/Kg
1月	22日	～	720円/kg
1月	24日	～	700円/kg
1月	28日	～	670円/kg

2020年1月度は平均で706.30円/kgとなり、前月比1.30円/kgの値上がりとなりました。

海外銅価の動き

1月のLME銅相場	1/2～1/30	(安値ドル 5,698.00～6,300.50 高値ドル)
1月のNYC銅相場	1/2～1/26	(安値セント 255.35～287.60 高値セント)

1月度のLME現物は、1/2 \$6,165.50でスタート。\$6,000台でのスタートは2019年5月以来と久しぶりとなった。その後も徐々に上げる展開が続き、1月16日には\$6,300を超えるところまで銅価を押し上げる形となった。不安材料の根源であった米中貿易協議が第1弾とはいえ、一応の合意に達したことが銅の実需回復への期待となった模様。また、米国内経済は依然堅調な動きを見せており、ニューヨーク株式が最高値を更新するなど金融市場も盛んな状況であり、これも銅相場の上昇に影響したと思われる。

しかしながら、後半に発生した新型コロナウイルスの感染拡大には大きな懸念材料があり、銅価だけでなく、経済環境に大きな影響を今後も与えることとなりそうである。LME現物価格は16日をピークに下がり続け、24日に\$6,000を割り込み、月末30日にはついに\$5,621まで急落する動きとなった。

銅需給バランス…Brook Hunt 情報 2019年7月 資料より (単位/千トン)

	2018年 実績	2019年 実績	前年比	2020年 予想	前年比	2021年 予想	前年比
全世界地金生産	20,339	23,843	+2.2%	24,253	+1.7%	24,655	+1.7%
全世界地金消費	23,579	23,932	+1.5%	24,290	+1.5%	24,607	+1.3%
全世界需給バランス	-240	-89		-38		+48	

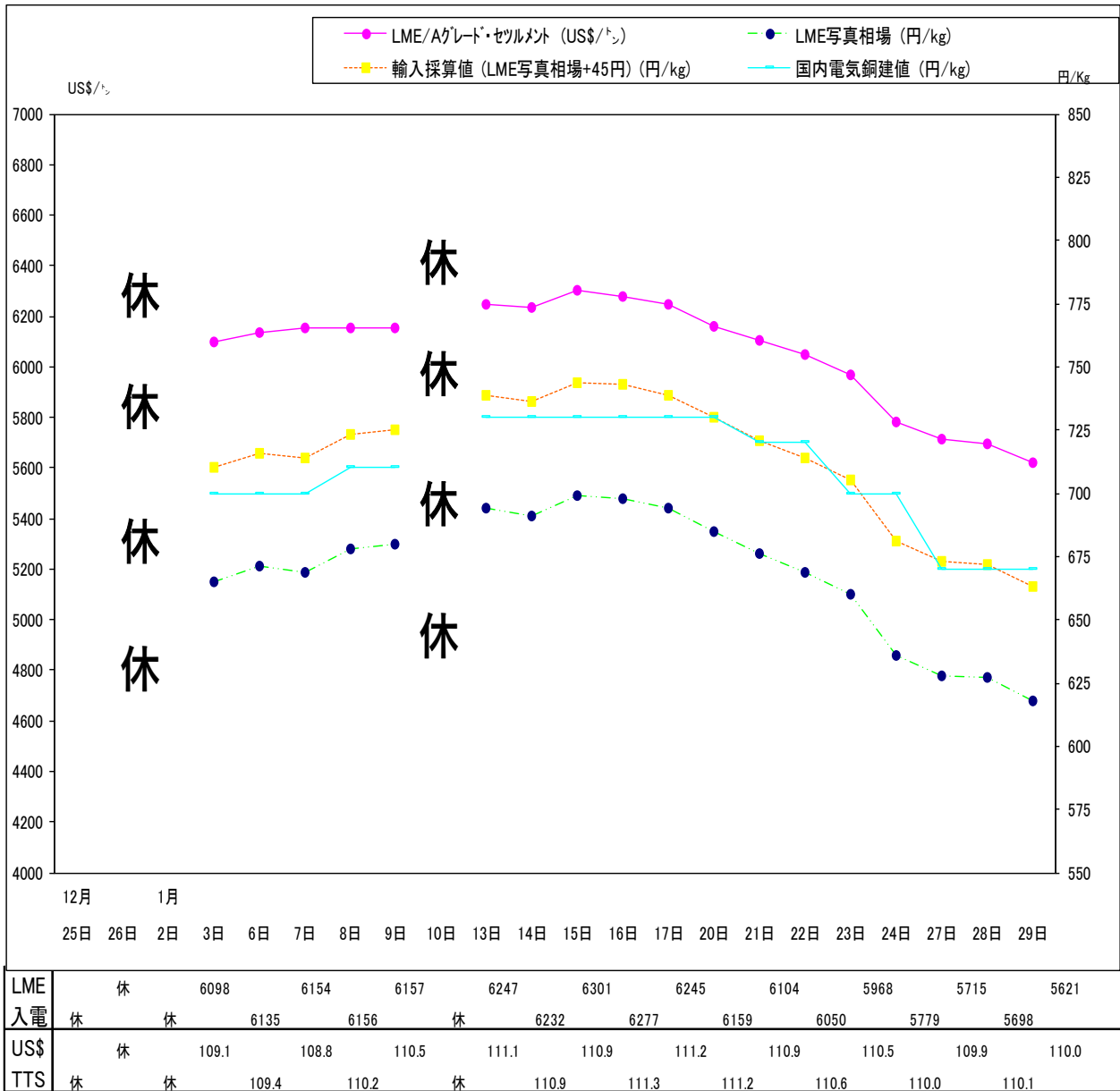
先行き短期見通

国内銅価

1月の国内建値は6日700円/kgでスタート。米中合意に合わせるように9日710円 14日730円を付けるも、新型コロナウイルスの発生で22日720円、24日700円、28日には670円まで急落した。

1/30付 LME \$5,621.00、同 為替 (TTS) 1USD=110.01円で日本円換算計算値618円/kg。
2020年2月の国内電気銅建値のスタートは、以降変化のない限り、660円の予想です。

◎ LME相場推移及び国内電気銅建値推移



◎ 2020年1月の国内亜鉛建値は下記の通りです。

- 1月 6日 ~ 304 円/kg
- 1月 9日 ~ 313 円/kg
- 1月 17日 ~ 319 円/kg
- 1月 22日 ~ 322 円/kg
- 1月 27日 ~ 307 円/kg

平均312.40円/kg

2020年1月は上記の通りで前月比 12.60円/kgの 値上げとなりました。

これはLME亜鉛相場が上昇したため。

◎ その他の建値

電気鉛	1月	271.90 円/kg	(前月比-	0.30 円/kg)
電気錫 (相対)	1月	3,260.00 円/kg	(前月比+	20.00 円/kg)
ニッケル (溶解用)	1月市中価格	1,500.00 円/kg ~ 1,550.00 円/kg		
銀	12月平均	61,350.00 円/kg	(前月比-	80.00 円/kg)
	1月31日	63,890.00 円/kg		
金	12月平均	5,203.63 円/g	(前月比+	29.63 円/g)
	1月31日	5,540.00 円/g		

◎ 伸銅品関係

2019年12月の伸銅品・品種別生産速報 (全国ベース)

		11月度実績	12月度速報	前月比	前年12月度実績	前年同月比
銅	板	1,517	1,662	9.6%	1,330	25.0%
	条	20,556	19,661	-4.4%	21,357	-7.9%
	管	8,741	8,671	-0.8%	9,346	-7.2%
	棒	1,970	1,928	-2.1%	2,108	-8.5%
	線	269	250	-7.1%	305	-18.0%
黄銅	板	547	629	15.0%	564	11.5%
	条	7,837	7,395	-5.6%	8,782	-15.8%
	管	446	462	3.6%	522	-11.5%
	棒	14,554	14,302	-1.7%	15,137	-5.5%
	線	2,033	2,133	4.9%	2,461	-13.3%
青銅	板	2,216	2,046	-7.7%	2,341	-12.6%
	条					
	棒	269	279	3.7%	314	-11.1%
	線					
洋白・その他	板	385	404	4.9%	495	-18.4%
	条					
	棒	342	324	-5.3%	448	-27.7%
	線					
合計	61,682	60,146	-2.5%	65,510	-8.2%	

12月の伸銅品生産速報は、60,146トンで前月比マイナス1,536、前年同月比マイナス8.2%となり、前年同月比が13ヶ月連続でマイナスとなりました。

電 線 関 係

電線工業会がまとめた銅電線主要7部門別出荷数量の10月分実績及び11月分推定では、10月分実績は総計60,708tで60,000tをクリアしたものの、前年同月比で5.7%減少した。建販が30,000tをクリアするなど健闘したものの、前年同月が比較的好調だったため、輸出を除き6部門が前年を下回った。11月分推定も10月実績と同傾向を示し、総計は59,500tで同7.3%減になった。前年同月を上回ったのが通信のみとなり、建設電販も約30,000tとなり、同3.6%減少した。

10月分の電線部門別出荷をみると、マイナスグループは6部門となった。通信は1,000tを上回り需要の山場になったが、前年が高水準なため同1.8%減少した。電力は、CVケーブルの張り替え需要があるものの、保守・メンテナンスが主力となり、同4.7%下降した。電気機械は、米中貿易摩擦の影響が大きく、同11.8%減で、14ヶ月連続してマイナスとなった。一部医療向けなどを除きFA・ロボット電線ケーブルを含む機器用電線ケーブルは不調が続く。自動車は生産台数にリンクし、同2.0%減と13ヵ月ぶりに下回った。ただ、自動車の電動化が進んでいることもあり、落込み幅は自動車の生産台数よりもかなり低かった。また、建設電販は前年が好調だったため、30,410tと30,000tを上回りながらも、同3.9%減となった。その他内需も同12.8%減少した。一方、プラスは輸出のみとなった。一部スポット需要が発生し、同9.4%増加して、3ヵ月連続での増加となった。

2019年10月分(実績)・2019年11月分(推定)主要部門別出荷

部門	数 量						金 額		
	10月実績 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	11月推定 (t)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)	10月実績 (百万円)	対前月 比(%)	対前年同 月比(%)
通信	1,020	24.7	▼1.8	1,000	(▼2.0)	22.1	1,564	(12.1)	▼7.4
電力	(1,898)	(▼20.3)	(22.4)	(1,500)	(▼21.0)	(▼6.3)	(1303)	(▼20.7)	(5.8)
	4,365	8.2	▼4.7	4,100	▼6.1	▼9.9	5,168	6.0	▼6.1
電気機械	(210)	(2.9)	(▼56.3)				(162)	(▼25.0)	(▼65.2)
	11,671	4.1	▼11.8	11,400	▼2.3	▼10.8	15,745	4.2	▼13.4
自動車	(159)	(▼3.0)	(57.4)				(538)	(▼3.8)	(32.5)
	7,661	▼5.8	▼2.0	7,700	0.5	▼4.3	35,570	▼5.4	▼1.1
建設・電販	(53)	(76.7)	(430.0)				(40)	(11.1)	(233.3)
	30,410	0.8	▼3.9	30,000	▼1.3	▼3.6	34,029	▼0.7	▼7.5
その他内需	(89)	(61.8)	(▼10.1)	(600)	17.4	(▼9.8)	(91)	(56.9)	(7.1)
	4,283	▼3.0	▼12.8	4,500	5.1	▼2.5	7,250	▼1.8	▼13.1
内需計	(2,409)	(▼15.0)	(7.4)	(2,100)	(▼12.8)	(▼7.3)	(2134)	(▼15.1)	(▼3.0)
	59,410	1.1	▼6.0	58,700	▼1.2	▼5.2	99,326	▼1.3	▼6.7
輸出	(65)	(6400.0)	(1525.0)	(100)	(53.8)	(▼68.2)	(47.0)	(1075.0)	(235.7)
	1,298	▼27.5	9.4	800	▼38.4	▼64.1	5,080	▼16.5	▼14.9
合計	(2,474)	(▼12.8)	(10.2)	(2,200)	(▼11.1)	(▼14.7)	(2,181)	(▼13.3)	(▼1.6)
	60,708	0.2	▼5.7	59,500	▼2.0	▼7.3	104,407	▼2.2	▼7.2
心線販売	(661)	(31.9)	(▼47.4)	(600)	(▼9.2)	(▼60.0)	(162)	(33.9)	(▼53.6)
	32,052	8.2	▼5.3	30,800	▼3.9	▼9.0	21,317	8.0	▼11.9

(注) ()内はアルミ線を示し外数。ただし推定欄のアルミ線は電力、輸出部門以外は「その他内需部門」に一括計上。▼はマイナス。
金額は四捨五入の為計が合わない場合がある。

2019年10月分品種別出荷 単位:銅量:トン アルミ量:トン 金額:百万円

品種	数量	対前月比 (%)	対前年 同月比	金額	対前月比 (%)	対前年 同月比
裸線	3,782	▼2.6	▼3.2	2,996	▼5.6	▼19.8
巻線	10,971	3.7	▼11.8	11,714	4.2	▼13.5
機器用電線	3,489	8.2	▼10.1	10,053	7.4	▼8.1
通信用電線・ケーブル	1,556	12.5	▼4.7	3,351	6.8	▼9.3
電力用電線・ケーブル	23,251	▼0.2	0.4	23,499	▼6.0	▼5.5
被覆線	11,717	▼2.4	▼10.3	16,253	▼0.7	▼10.4
輸送用電線	5,942	▼4.1	▼6.1	36,540	▼5.0	▼2.6
銅電線計	60,708	0.2	▼5.7	104,407	▼2.2	▼7.2
EM電線・ ケーブル						
通信用電線・ケーブル	91	7.1	11.0	294	1.0	5.4
電力用電線・ケーブル、被覆線	4,108	13.7	29.5	4,577	12.5	20.9
計	4,207	13.5	29.0	4,913	11.9	19.6
アルミ電線計	2,474	▼12.8	10.2	2,181	▼13.3	▼1.6
光製品	3,127,499	4.1	▼34.6	23,679	▼13.7	▼1.1
うち、光ファイバーケーブルコード	-	-	-	5,020	▼7.2	1.6

(注) 1. EM電線・ケーブルはJCS規格17品種が対象であり、機器用、消防用等のノンハロタイプは含まれない

(注) 2. 四捨五入の為計が合わない場合がある。

(注) 3. 光製品の数量はkmc

(注) 4. ▼はマイナス

◎ **アルミニウム関係**

○ 国際アルミニウム地金相場、正月明けスタートの第2週は、米国のイラン革命防衛隊のソレイマニ司令官殺害による中東情勢の緊迫感による、方向性を探る展開での値動きの乏しい状況でのスタートとなる。週末、LME 指定倉庫で 12 万弱のキャンセルワラントによって一時上伸したが、中東情勢緊迫化への懸念が後退したことを受け、米株価の上昇からドル高となり \$ 1, 8 0 0 を軸に狭いレンジでの推移となる。第3週、米中通商協議の第一段階合意に署名するも、制裁関税の撤廃については第4弾の一部に限定するなど世界経済の減速が懸念され小幅な動き。A l c o a 社は 2 0 2 0 年の需給バランスに関し、最大 1 0 0 万MT 超の供給過剰に転じる見通しを示すなど、需給面からみてもアルミ相場の上値は重い。第4週、中国 1 9 年 GDP 成長率が 6. 1 % と 1 9 9 0 年以來の低水準へと鈍化するも、国家統計局長が 2 0 年の積極的な財政政策と穏健な金融政策の維持を表明し底支えされた。中国旧正月を控え商い薄い中、連日続く LME 在庫減少を背景に足元のスプレッドはバックワーデーションを形成。価格もサポートされ、二週間ぶりの高値となる \$ 1, 8 2 7 をマーク。しかし、武漢に封鎖措置が発動されたことで新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済のリスクになるとの警戒感から価格は下落。最終週、新型コロナウイルスの感染が拡大。中国春節連休が延期され、経済への深刻な影響が懸念される。アルミは予想を上回る米経済指標によるドル高によって下落。コロナウイルスによる世界経済への影響が見えて切るまでは、小幅な動きで \$ 1, 7 0 0 台前半での小幅な推移を予想。

○ **対日オファー及び国内価格**

- ・対日オファー (C I F) 2020年 1月積 1,877.00~1,883.00 ドル/トン
- ・輸入採算価格 2020年 1月積 219.80~220.50 円/kg
- ・NSP 2019年 11月 249.00 円/kg
- ・NSP (メーカー対応価格) 2020年 1月~3月 250.00 円/kg

○ **I A I 統計アルミニウム新地金生産高 (単位=千トン)**

	' 19年 11月	' 19年 12月	' 18年 12月
月生産	*2,311.0	2,389.0	2,256.0
平均日産	*77.0	77.1	76.0

(* = 訂正有り) 中国は対象外にしております。

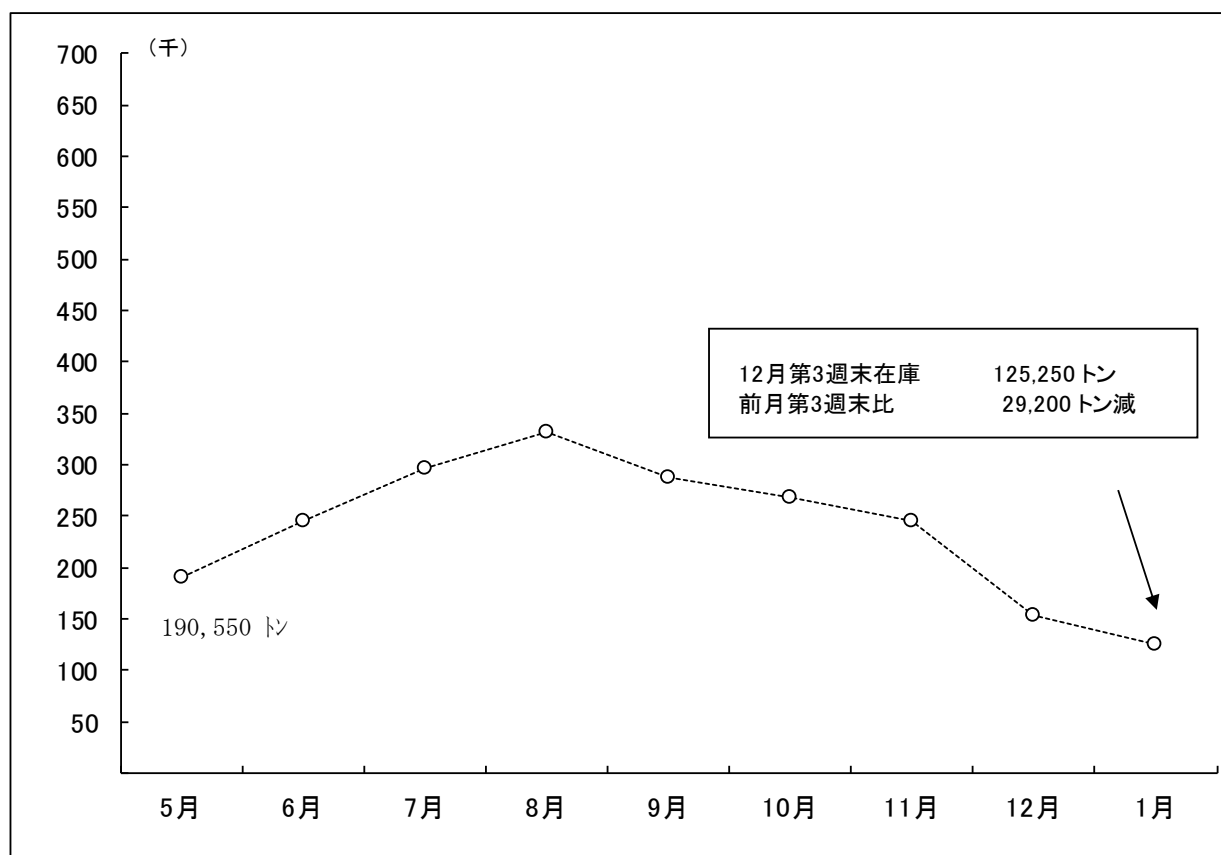
○ **アルミインゴット港湾在庫**

(単位: トン)

	2019年 9月	2019年 10月	増減	2018年 10月	増減
横浜	157,600	161,000	+3,400	155,500	+5,500
名古屋	154,100	141,700	-12,400	146,800	-5,100
大阪	15,000	15,500	+500	15,000	+500
合計	326,700	318,200	-8,500	317,300	+900

上記アルミインゴット港湾在庫に変更致しました。(2015年1月分からの変更です)

◎ LME銅在庫 (各月第3週末参考)



◎ COMEX在庫 (第3週末)

・20年1月17日現在 34,703 S T 前月比 5,255 S T 減

◎ 国内山元電気銅在庫

・19年11月末 90,019 トン 前月比 6,697 トン減

◎ 伸銅品生産実績

・19年11月確報 61,682 トン
・19年12月速報 60,146 トン 前月比 97.0 %

◎ 電線出荷実績

・19年12月速報 56,600 トン 前月比 95.1 %

◎ 軽圧品生産実績

・19年 12月	板 類	89,628 トン	
	押 出 類	61,081 トン	
		<hr/>	
		150,709 トン	前月比 95.6 %

以上簡単ですが銅概況、他のご報告申し上げます。